

平和とよりよき生活のために

広島

の
せいきょう

第29号 2010年4月30日
広島県生活協同組合連合会発行

〒730-0802

広島市中区本川町二丁目6-11

第7ウエノヤビル5F

TEL 082-532-1300

FAX 082-232-8100

E-mail:kenren.h@proof.ocn.ne.jp

URL:http://hiroshima.kenren-coop.jp

賀川豊彦の足跡から協同組合の展望をさぐる

新春学習交流会 報告 1/7(木)



平田環境県民局長

生協運動の父といわれる賀川豊彦は今から100年前、神戸において救貧活動をはじめました。日本における社会運動の先駆的役割を果たした賀川豊彦献身100年を記念して、全国的に記念事業が行なわれており、広島においても、本年の新春学習交流会で賀川豊彦について学びました(参加者161名)。

冒頭、主催者挨拶に続き、ご来賓広島県環境県民局長 平田様から消費者行政への協力のお礼と期待が述べられました。また、消費者庁の設置、消費者安全法の施行など一元的な行政へと変わりつつあり、関係機関との連携を強化して悪質業者の取り締まりや相談体制の充実を図っていくと意欲的なご挨拶をいただきました。続いて、JA広島中央会の村上会長、県労福協の宮地会長、広島県消団連の瀬野会長、最後に日本生協連中四国地連の人事務局長から、生協の活動に期待を込めた内容のご挨拶をいただきました。

講演に先立って賀川豊彦の活動を紹介するDVD「愛と協同」上映の後、賀川豊彦・松沢資料館館長の加山久夫さんに「賀川豊彦の足跡から協同組合の展望を探る」と題してご講演いただきました。

賀川豊彦が大切にしていたキリスト教・協同組合・世界平和について紹介され、特に彼のライフワークである協同組合運動を中心にお話いただき、協同組合論から学ぶものとして、次の3つの提言をいただきました。

- ①協同組合の理念(運動体)と実践(事業体)を切り離さない
- ②賀川の協同組合理解の全体性、統合性、連帯性に学ぶ
- ③第3の道としての協同組合の重要性

とりわけ②については、農業協同組合についても触れられ、生産組合と消費組合との有機的関係の重要性およびその大きな役割への期待、さらに③については非営利組織が担う社会経済の重要性が高まっており協同組合はその中枢を担い、ワーカーズコープの根拠法ができれば協同組合運動はさらに大きく幅を広げられる、と説明されました。

参加者からは賀川豊彦の偉大さを再確認した、初めて知ったという声もあり、協同組合運動の重要性をあらためて確認する場となりました。

通路の賀川豊彦の業績を当時の写真でつづったパネル展示にも多くの関心が集まりました。



講演される加山久夫さん



会場風景 参加者161名



通路に展示したパネル

平和の取り組み

2010市民平和行進結団式&ピースフォーラム 4/19(月)

市民平和行進結団式では市民6団体から、被団協の吉岡さん、宗教者NGOの家守^{けもり}さんから日頃の活動やNPT再検討会議のに向けた取り組みなどを紹介され、一緒に平和行進などの活動に取り組みたいとメッセージをいただきました。また被団協の坪井さんからは、平和行進やNPT再検討会議においても、生協のみなさんの支援を受けて活動できると感謝を述べられました。

続いてピースフォーラムです。県連の富田会長理事が「生協と平和活動」と題して、戦争で親族を亡くしたことなど自身の体験を含めて、戦後の生協の平和の取り組みについて講演しました。日本生協連の「創立宣言」・「平和宣言」を紹介し、協同組合運動者が大戦の惨禍を自覚し「平和の使途」たらんことを誓い合ったこと、基本スローガンを「平和とよりよき生活のために」としたことなどを説明しました。また、日本の平和運動が分裂と統一を繰り返す中で、生協が役割発揮してきたこと、など戦後の歴史を紹介しながら、長い平和の活動の積み上げにより核兵器廃絶への道筋がつくられてきたことを強調しました。

最後に、被爆地広島にある生協として、諸団体とも手を携えていきたいと結びました。



講演する富田会長理事

県内生協から12名派遣します

NPT(核不拡散条約)再検討会議代表団壮行式

壮行式には、広島医療生協、広島中央保健生協、福山医療生協、生協ひろしま、県連から11名が参加し、横断幕を持って前列に並びました。参加者を代表して生協ひろしまの橋野さんが、「組合員の核兵器廃絶の思いを持って精一杯活動したい」と決意を述べました。会場からは大きな拍手が起り、被団協の坪井さんからも現地で一緒に頑張ろうとエールをいただき、生協ひろしま虹のコーラスとシスター山本の歌声で締めくくりました。



活動報告
福山医療生協の西澤さん



活動報告
生協ひろしまの竹内さん



前に並んだ代表団のみなさん



虹のコーラスとSr.山本



河合よねさんによる
原爆詩朗読 涙ぐむ人も



代表団を代表して
抱負を述べる橋野さん

“2020ネットワーク”「毎月20日は署名の日」



CANT(都市を攻撃目標にするな)
プロジェクト署名
街頭行動で、2,394筆

平和市長会議が提唱する2020ビジョンに賛同した団体で構成する「2020ネットワーク」では、昨年6月から20日を署名の日と定めて、「都市を攻撃目標にするな(CANT)プロジェクト」街頭署名に取り組みました。街頭では、広島市民に加えて遠方からの旅行者の署名も多く集まりました。集まった2,394筆は、NPT再検討会議開催(2010年5月)時に同会議議長へ提出していただくため3月24日に平和市長会議に託しました。

署名活動には毎回25名前後(述べ224名)の参加者があり、高校生の元気さ、明るさに励まされながら楽しく取り組むことができました。組織を超えて、しかも連続して取り組み、あらためて継続すること、個人が自主的に参加してつながることの大切さを実感した活動でした。



平和市長会議を代表して
リーパー理事長に署名を提出

【2020ネットワーク構成団体】

- 「核廃絶! ヒロシマ中高生による署名キャンペーン」
高校生実行委員会
- 広島高校生平和ゼミナール
- 広島県生活協同組合連合会

2010年度 初級職員研修会～昨年より多い参加者50名で開催 4/7(水)

今年も入協3年目までの職員を対象に研修会をおこないました。

5生協・1子会社、年齢は18歳～56歳(平均28歳)、男女比2:3、医療専門職、介護職、店舗や個配の担当、事務職、住宅関係の営業職など多種多様な参加者が同じ講義を受け、交流しました。多様な生協・多様な職種で働いている人がいること自体が、一番の学びであり、刺激を受けます。

アンケートで印象に残ったことをたずねたところ、①組合員の立場からお話を聞いて、コミュニケーションの大切さに共感したこと、②生協の歴史や医療生協のことなど、生協の組織について学べたこと、③碑めぐりで、広島を学び、平和の大切さを実感したこと、④グループワークのなかでリーダーなどそれぞれの役割を果たしながら、協力して一つのを仕上げ、プレゼンしたこと、の4つの回答が多く出されました。

午後「お弁当屋さん」と題するワークショップでは、NPO法人や伝統的な弁当屋、スーパーマーケットなどが、配食事業を入札するという設定でプレゼンを行いました。簡単な条件で情報が少なかったのですが、各グループで活発に意見が出され、初の試みにもかかわらず予想以上のプレゼンが行われました。ここで午前中の講義にあったコミュニケーションの大切さやチームワークを実感したようです。

それぞれの生協で責任ある仕事に就く本日の参加者が、学んだことを生かし、信頼と共感を育む職員になることを期待しつつ、研修会を閉じました。



講義中の真剣な表情の受講者

【当日のプログラム】

内 容	講 師
講義「生協の歴史と職員の仕事」	岡村信秀専務理事
ミニ講義「消費者被害について」	NPO法人消費者ネットひろしま 宗山隆幸事務局長
講義「医療生協がめざすもの」	斉藤孝司理事(広島医療生協 専務理事)
講義「組合員の立場から生協職員に期待するもの」	橋野俊子理事(生協ひろしま 理事)
お弁当の内容説明	NPO法人よもぎのアトリ工代表 室本けい子さん
碑めぐり	生協ひろしま碑めぐりガイドの会
ワークショップ「お弁当屋さん」	県連事務局



グループワーク

福祉事業推進協議会主催 第4回 生協福祉学習交流会 3/13(土)

第1部の講演会では、三輪道子さん(74才現役ヘルパー)に標記テーマでご講演いただきました。55才でヘルパーになられた三輪さんは、ヘルパーの身分保障や賃金の安定・向上をめざし、ひとりぼっちのヘルパーをなくす取り組みをしてきたことなどについて、穏やかな語り口ながら力強くお話しされました。また、「問題解決はみんなで取り組もう(みんなで記録し共有化)」、「自信と誇りを持つ」、「利用者さんに生きる意欲と生きている喜びを持ってもらえるように寄り添おう」などと、呼びかけられたのが印象的でした。ヘルパーは「いのちとくらしを支える福祉の専門家」、「『生涯現役』を合言葉にしていつまでも元気で頑張りたい」と述べられ講演を終えられました。

日 時：2010年3月13日(土) 13:30～16:30
会 場：YMCA本館4F会議室
参加者：83名

- (1) 講 演：講師 三輪道子さん
(全国ヘルパー連絡会副代表・京都ヘルパー連絡会世話人)
テーマ「お悩み解決! ヘルパーの本音と仕事
～ヘルパーはいのちとくらしを支える福祉の専門家～」
(2) 分散交流会：8の職種別グループで意見交流

第2部では、ヘルパー、サービス提供責任者とケアマネージャーそれぞれのグループに分かれて、現在抱えている仕事上の悩みを出し合いました。同じような問題を抱えていることに共感して気持ちが楽になった、パワーをもらった、また違う意見が参考になった、交流の時間が足りない、もっと交流したいという感想や意見が多く出されました。

最後に、3つのグループから報告いただき、福祉学習交流会を終えました。



【当日の会場の様子】左から講師の三輪さん、講演会場の様子、分散交流会の様子

広島県生協連のあゆみ

「戦後の民主化と生協の台頭」 会長理事 富田 巖

戦後の民主化の流れと食糧難や物資不足の中で、全国的に生活協同組合(生協)が台頭してきた。県内でも町内会や事業所などを単位に文字通り生活協同組織として、実に80組合を超える生協が相次いで設立された。こうした動きの中で、1949年(昭和24年)4月には県内の生協を結集して広島県生活協同組合連合会(県連)が設立されている。しかし、戦後の民生安定に大きな役割を果たしてきた生協であったが、その後の急激な経済変動に対応しきれず、1955年代半ばまでに大半の生協が経営難に陥ると共に、事業休止や解散(自主解散や個人商店化など)に追い込まれている。県連も例外ではなく、1954年(昭和29年)には自らの事業経営の失敗と会員生協の経営不振の影響を受けて、多額の負債を抱えながら事業休止に陥っている。

その後、困難を乗り越えて事業を継続してきた数少ない生協が集まり、休止した県連に代わる新しい連帯の場として広島県生活協同組合連絡協議会(県協議会)を発足した。しかし、この時の県協議会は事務局体制も無く、会長自らが自宅を事務所として運営に当たる状態で、組織的な活動に取り組むまでには至らなかった。(つづく)

会員生協レポーターからの報告



日立造船因島生協

COOPフレニール オープン

因島中心市街地土生町の「サティ因島店」跡地に4月16日(金)「CO-OPフレニール」がオープンしました。

新店舗は敷地1724㎡に鉄骨平屋建て一部二階建てで一階店舗売り場面積838㎡、屋上は自走式駐車場で29台収容、2階部分は店舗事務所と商品部事務所となっています。

名称の意味はフランス語の「フレ=新鮮な」「フルニール=供給する」を合せて新鮮な商品を笑顔で供給する店「CO-OPフレニール」としました。職員数は職員7名パート職員38名、供給予算8億7千万円、営業時間8時~20時、営業日364日です。

食品店舗は今非常に厳しい状況ですが、そうした中での出店のため、商品部を本部から移設し、店長・部門担当者と共にフレニールを因島の一番店とするよう取組んでいます。

また、フレニールが核店舗となり、土生町商店街の活性化のため、土生商店街連合会・商店街姫の会と連携し、土生町に集客できるか、今情報交換をしているところです。

尚、フレニールは土生町に2店舗あった店舗を統合した為、食品店舗数は1店舗減となりました。閉店した1店舗は1階を衣料品「パレット」、2階を100円ショップ「ミーツ」として4月28日に開店します。



広島修道大学生協

学生委員会が教科書購入相談

4月4日から9日まで、教科書購入相談という企画を行いました。この企画の目的は二つあり、一つ目に高校の時とは違い教科書を自分で選び購入しなければいけないので、新入生にどの教科書を購入したらいいのかをアドバイスし、新入生の不安を解消したかったためです。二つ目に、毎年教科書を購入する部屋が混雑しどこが受付のための列なのかよくわからず組合員が苛立ってしまうため、列を整理することでスムーズに購入できるようにしたかったためです。内容として、新入生の悩みを聞きアドバイスできる場所はアドバイスし、列が混雑してきたら空いている受付に案内するようにしました。

4月4日から6日までは新入生だけが教科書を購入できる日なので、主に新入生からの相談に答えました。特に4日は日曜日ということもあって人が少なく、新入生1人辺り1時間近く相談を受けることができ、新入生と保護者両方の悩みや不安を解消することができました。



お知らせ

経営セミナー

実践の中で成果を上げている生協に学ぶ

日時：2010年6月24日(木)15:15~16:45(総会后)

会場：鯉城会館5Fサファイヤ(市内中心部)

講師：津田泰秀氏(おおさかパルコープ常務理事)

演題：「おおさかパルコープの到達点と今後の課題」(事前にお申込ください)